

コミュニティ・スクール情報

2021.12.3

令和3年12月3日（金）、横山小学校で行われた「第2回横山っ子ネットワーク協議会」の議事録を下記に掲載しましたのでお読みください。

【学校運営状況】 渋谷 譲校長の説明

- 12月1日に、アドバイザーの東京大学の市川伸一先生をお迎えし、公開授業研を行った。外部の先生方やまた本校職員も、子どもたちの成長を感じることができた。
- めざす子どもの姿「よこやま」に近づくよう努力を重ねてきた。

「良く体を鍛える子ども」コロナ禍で感染対策（マスク・手指消毒）をしっかりと行っている。給食も、当初1年から3年までのランチルーム給食にしたが、状況的に密になりがちもあり、今は1年と2年生で行っている。冬期の器械体操運動に外部講師を依頼して取り組んでいる。子どもたちが頑張っている持久走大会も学年を区切って実施している。

「心優しい子ども」については、縦割り活動として、ボール送りリレーや長縄飛びなどを通し上の子が下の子の面倒を見ながら実施し、1年生も楽しく活動している。

「なかよしになるためのアンケート」の実施。児童の訴えはすべていれている。職員も、アンテナを高くし、小さいいじめの芽を発見するよう努めている。

「やりとげるために頑張る子ども」について、知・徳・体すべてがかかわる。学校祭の発表をどのようにしてやっていくかなど、子どもが苦勞しながらつくりあげてきた。

「学び励む子ども」について、普段の授業で基礎基本の定着を目指しわかりやすく教える。自分の言葉として伝えることが本校の課題でもあるので、授業を通し育てていきたい。
- 地域との関わりということで、稲刈り体験、御神楽や獅子舞などの伝統芸能、人権教室など多くの方に子どもに寄り添い丁寧に指導していただいた。
- 修学旅行では、南三陸町を訪問することができた。6年生の総合的な学習で学んできた町づくりについて、南三陸町と三川町の比較をしながら、学びを深め、三川町の町づくりへの思いも新たにした。
- 5年生の自然教室でも、悪天候の中ロングウォークとして全員があきらめずやりとげ成長を感じられた。

【学校運営に関わる質問】 委員の方より

- なかよしになるためのアンケート結果にかかわって、5月実施と11月実施の結果があるが、学校の対応を知りたい。

→ 具体的な対応として、アンケートをだしてもらい担任が面談をする。子どもの声や思いをくみとり、学校のいじめ対策委員会に報告する。この委員会では、一つひとついじめの認知件数にあてはまるか判断する。概ね認知件数にあたる。それを保護者にも伝える。
- 学年が上がるといじめの件数が少なくなっている。高学年になるほど人にはなすということも少なくなる。学校の指導で何か有効なことがあればお聞きしたい。

→ 高学年では面談の機会をより大切にしている。周りからの情報などに担任がよりアンテナを高くしてあたっている。

○ICT機器の活用状況はどのようになっているのか。活用におけるトラブルなども心配されるので伺いたい。

→授業では修学旅行時の検索、プレゼンでの資料作成。道徳で（ポジショニング機能）の活用、下の学年では操作方法を中心に活用。持ち帰りは三川町ではまだしていない。今後、持ち帰りをしてドリル学習などするようになったときには、ルールを改めて定める必要がある。

→教育委員会としては、今の段階ではタブレットを持ち帰ることをしていない。家庭のWi-Fi環境等も整っていない。中学校では、Wi-Fi環境につないでの受験対策や学習のまとめができるように設定してある。発達段階に応じた活用ができるように考えている。

○県や町の支援員が多いこと、手厚い指導になっていることに改めて幸せを感じる。タブレット活用についても早い段階から触れることができ今後に期待したい。

○いじめについては常にアンテナを高くし、気になることがあれば声をかけてほしい。また、隠すことや解消されないままにならないよう努めてほしい。

【学校課題から地域へのお願い】

○獅子舞や御神楽への子どもの関心は高い。現在、指導いただいている方からは、年齢的にきつくなってきたと言われている。継続のための案を考えてほしい。

⇒獅子舞は、氏子関係者の伝習となっていることから、現在、指導していただいている方からの紹介で後継人を探していく。御神楽は、ほほえみ会へ依頼しビデオ等をしっかり残していく。

○収穫祭の持ち方について、コロナ禍で多くの人数での会食ができなくなっている。今後の方向性についてのご意見を伺いたい。

⇒収穫祭は、コロナが治まったらもとの形（全学年・保護者での会食）に戻したい。天気によっては野外でもよい。

【 熟議＝子どもに地域（町）のよさを伝えるには 】

（どんなことを伝えたいか）

- ・安心して穏やかに暮らせること。
- ・子どものことを大事にして、みんなが見守っていること。
- ・自然の美しさや、食べ物のおいしさに気づかせたい。
- ・他の地域を知ること（外に出てみることも）も三川のよさを知ることになる。
- ・住みやすいし、人間味があり心安まる町。子育てしやすい町。
- ・三川町は、山形県の目にあたる位地。温かい見守りの目や知識を得る町。

（課題などとして）

- ・中高生は県外等に目を向けがち、戻りたいときにもどれるような町づくりが必要。
- ・多くの経験を積むことができる機会、人との関わりがもて心をやしなえる機会。
- ・こどもは学習体験も多くなっている。先生方に、町めぐりなどを通して町のよさを児童に気づかせてほしい。
- ・ガイドは地域のよさをよく知っている。子どもにもガイド経験をさせながら、情報の発信を期待したい。
- ・新しい世帯も増えている中、親同士の絆を高めることが必要。同窓会と一緒に新たな支援組織を構築していくことも必要。
- ・夢がないと周りに流されてしまう。子どもの特性を学校と家庭が共有し、個を尊重しながら見守り接するようになる。

(学校や地域がやれること)

- 学校と町で情報共有。行政として活かす。わくわく体験などはとてもよい学びの場であり継続してほしい。
- 縦割りの活動は、学ぶことも多く今後に生きる。
- 学校の環境整備などのとき、子どもと一緒に仕事をするように（授業の一環として）したら、地域との結びつきはより深まるし、子どもの気持ちにも変化があるだろう。

